第４回　新県民体育館整備等基本計画検討会　次第

日時：令和７年 12 月 18 日（木）13:30～16:00
場所：オーテピア高知図書館４階「ホール」

１　開会

２　議事

（１）新県民体育館整備等基本計画（概要版・素案）

・施設整備計画（配置案）
・交通手段、駐車場、動線
・概算事業費
・収支の見通し
・経済波及効果
・防災機能のあり方　など

３　閉会

【添付資料】

【 議 事 】

（1）新県民体育館整備等基本計画（概要版・素案）

資料１　「第３回新県民体育館整備等基本計画検討会」における意見と事務局の回答

資料２　今年度のスケジュールについて

資料３　新県民体育館整備等基本計画（概要版・素案）

参考資料１　新県民体育館の平面図及び立体図

参考資料２　アスパルこうちのグラウンドを使用する場合の高知市教育委員会の要望に対する県の対応

参考資料３　新県民体育館の整備により目指していく姿と取り組み

参考資料４　整備コスト及び完成後 30 年間運営した場合の累計コスト

参考資料５　収支の見通し（シミュレーション）

参考資料６　高知ぢばさんセンター大ホールで開催している展示会等を新県民体育館で開催する場合の懸念点と対応策について

参考資料７　新県民体育館の整備に関する市民・県民のニーズ把握

参考資料８　新県民体育館の整備についての関係団体の主な意見（ヒアリング）

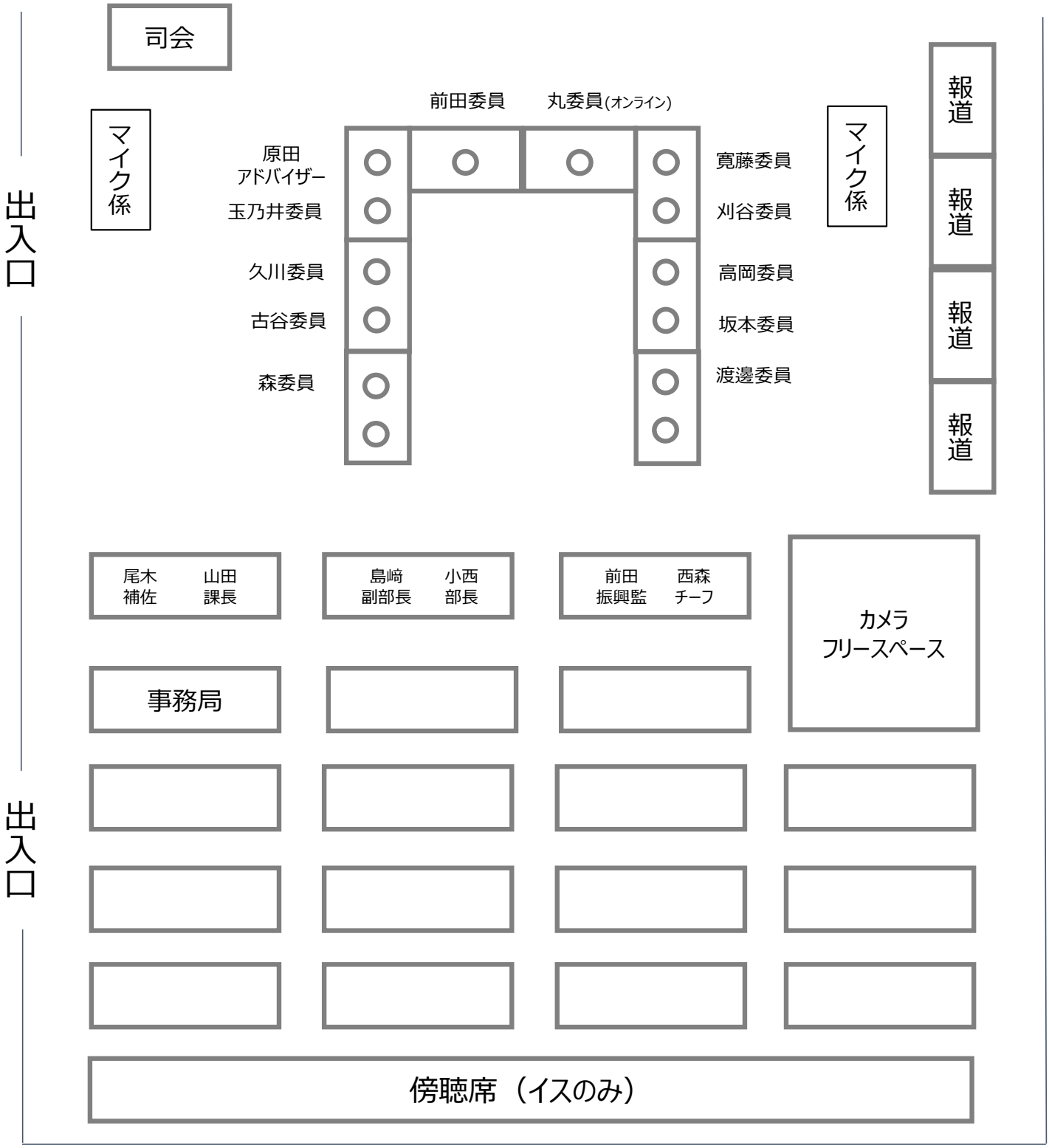
第４回 新県民体育館整備等基本計画検討会 委員一覧

（五十音順）

【 委 員 】					
NO.	氏名	所属・役職	分野	出欠	備考
1	刈谷 好孝	公益財団法人高知県スポーツ協会 専務理事	競技スポーツ	○	
2	寛藤 次男	高知県柔道協会 会長	武道	○	
3	坂本 淳	高知大学教育研究部自然科学系理工学部門 講師	防災	○	
4	高岡 幸史	高知市文化観光スポーツ部 部長	自治体 （文化・観光・スポーツ）	○	
5	玉乃井 欣樹	一般社団法人コンサートプロモーターズ協会 理事	コンサート	○	
6	久川 俊秀	高知市文化プラザかるぽーと 館長	文化	○	
7	古谷 純代	高知商工会議所 副会頭	商工	○	
8	前田 和範	高知工科大学経済・マネジメント学群 講師	スポーツマネジメント （アリーナ、Bリーグ）	○	
9	丸 朋子	大阪成蹊大学経営学部スポーツマネジメント学科 講師	スポーツビジネス・産業 （エンターテインメント）	○	オンライン参加
10	森 恒一郎	土佐経済同友会 観光推進委員会委員長	観光	○	
11	渡邊 英孝	高知県立障害者スポーツセンター 所長	障害者スポーツ	○	

【 アドバイザー 】					
NO.	氏名	所属・役職	分野	出欠	備考
1	原田 宗彦	学校法人浪商学園 理事・大阪体育大学学事顧問	スポーツマネジメント	○	

第４回　新県民体育館整備等基本計画検討会
配席図



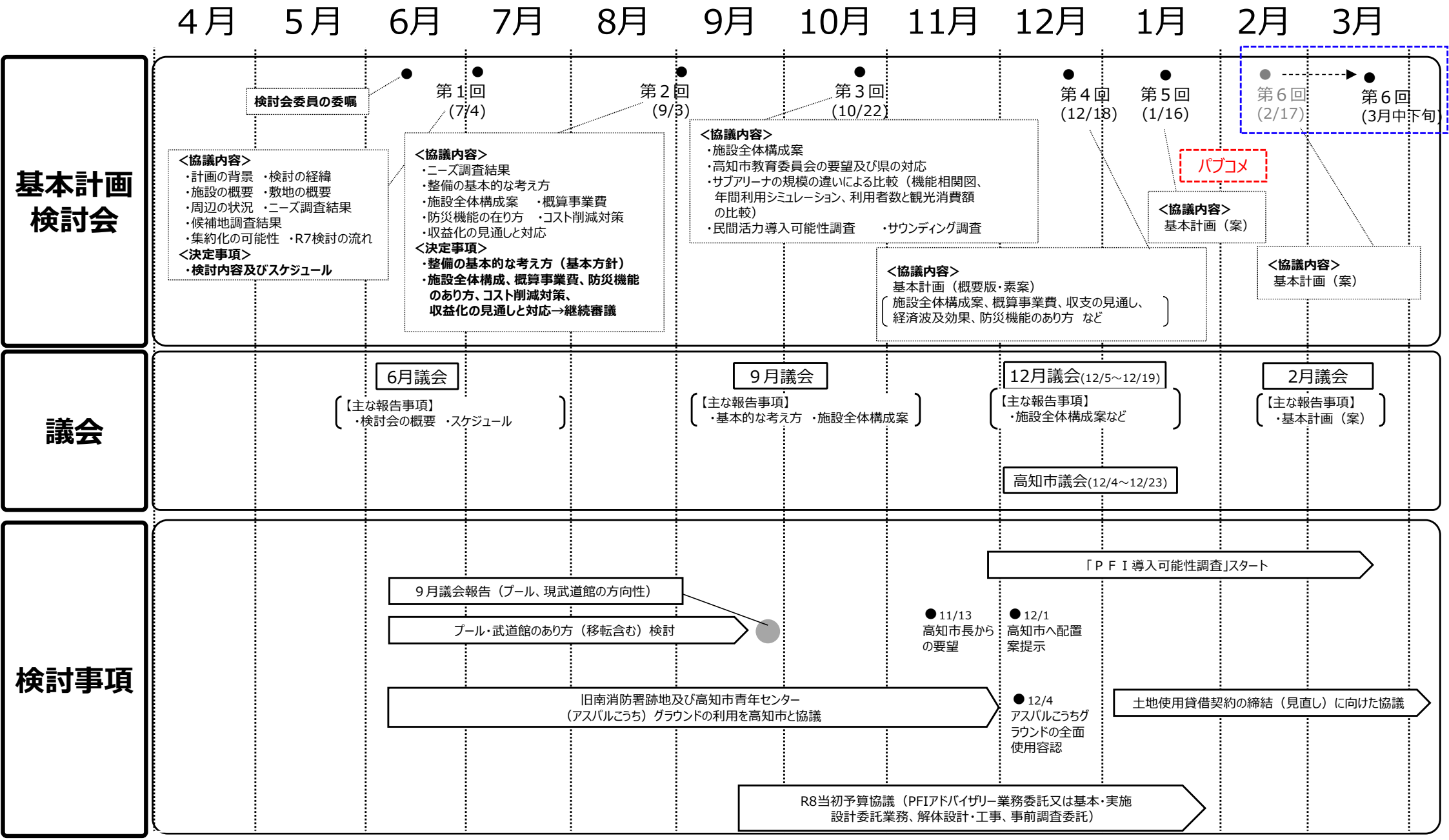
「第３回新県民体育館整備等基本計画検討会」における意見と事務局の回答

資料１

No.	委員等からの意見	事務局の回答
1	オープンハウスなどのニーズ調査の募集期間は長めに設定するとより多くの意見が集めることができるのでは。	11月19日から12月26日までの間、高知市役所、オーテピア、県民体育館において、新県民体育館の取り組みの概要や、期待することなどについてパネル設置により、県民・市民の声を広く集めている。また、同じ期間でアスパルこうちの中にある教育支援センターに通う児童生徒や保護者向け、県民体育館に比較的近い立地の市内学校に通う高校生向けのアンケートを行っている【参考資料７】。
2	プールの件でコストがどのくらいかかるかという議論がされてない。	プールあり・なしによる収支見通しを試算【参考資料５】。
3	昔は障害者も同じプールに入るようにリニューアルしようという考え方であったが、現代は分けた方がいいのではという考え方になってきている傾向がある。その1つの理由が入水の際のアプローチの仕方であり必ず車イスでアプローチするとなると余分にスペースとなる。むしろ別の施設にしっかり設置した方がいい。	高知市からの要望を受けてプールを現在地にアリーナと一体的に整備。プールは日常的な健康づくりの目的に加え、県立障害者スポーツセンターのプールが老朽化していることも踏まえ、その機能を移し、「子どもから高齢者、障害のある方まで誰もが使いやすいインクルーシブなプール」の設置を考えている。
4	アリーナやプールの建設後の利用者数や経済性のデータでの議論が必要。	収支見通しや経済波及効果を試算【参考資料５など】。
5	防災の観点から、例えば1階部分を全て駐車場にして、運動機能を上に上げるとかはどうか。	プールや武道館は２階に配置し、１階はピロティ（駐車場）を想定。また、サブアリーナの屋上には人工芝等のスペースを設置する予定。なお、設計段階で配置が変わる可能性はある。
6	市教委の教育的配慮においては県が積極的に実施してほしい。	高知市の教育施設に通う子どもたちへの「教育的な配慮」を行う【参考資料２】。
7	経済、教育の二者択一では決してない。今回このアリーナができること自体が、新たな機会の創出になり、50年使う施設になるので、これから使う子供たちをぜひ巻き込んだ議論であるべき。その機会こそが教育である。	子どもたちの教育面でプラスになるアリーナを活用した取り組みを高知市教育委員会と連携し検討していく【参考資料２】。「アリーナでこんなことができたらいい」、「アリーナを中心にこんな街にしたい」といったテーマで住民参加型でアイデアを出し合うワークショップなどの開催を検討していく。
8	コストの面をしっかりと検討していくべき。	整備コストと、整備後30年間運営した場合の累計コスト、収支見通しを試算【参考資料４、５】。
9	例えばグラウンドという形ではなく、屋内施設ということで整理をし、子供たちが通年使える施設を整備し、使用機会を増やしていく。	屋上の人工芝のスペースに加え、空調設備のあるサブアリーナを子どもたちに利用してもらうことを想定。
10	コストを全部財政で賄うという考え方ではなく、興行でしっかりと経済効果を生むような活動をサポートすべき。	民間企業の参入意向を調査中（サウンディング調査）で、PFIの導入可能性を引き続き検討している。また、クラウドファンディングや企業版ふるさと納税などの民間資金の活用も検討していく。
11	サブアリーナを横に配置することができれば、グラウンド半面利用でいいのでは。地下に駐車場を確保できればグラウンドも半分確保でき、サブアリーナが２面とれ、屋上人工芝にすることで夏場の暑さ対策などでプラスの利用が可能では。	グラウンドの半面に収める形で、サブアリーナを配置しようとすると観客席が十分に確保できないと判断。また、高知市から要望のあったプールを現在地でアリーナと一体的に整備することとし、グラウンド全面利用を高知市に容認いただいた。駐車場については、地下駐車場も含めて250台以上設置する想定。
12	防災に関しては浸水区域なので、かさ上げし防災避難の建物として利用されることとなれば、市や県全体の拠点としての防災関連の予算も使えるのではないか。	浸水深が２～３mと予測されており、例えばメインアリーナをかさ上げすることは、費用面や車両の動線上難しいと判断。新県民体育館は緊急一時避難場所や避難所としての指定を目指している。
13	プールは非常に利用者も多く、生涯スポーツの推進においては市としては大事な位置付けをしている。検討する際には、プールの整備について要望させていただきたい。	11月13日にプールの整備について高知市から県へ正式に要望が出され、プールを含めた配置案を事務局案とした。
14	市民の方々が常時普段使いができることを頭に入れて、図面を描いてほしい。	サブアリーナは主に県民の日常的なスポーツ活動の場、メインアリーナでも競技大会を開いたり、住民開放デーを設けるなど、イベントがない日でも県民が集いにぎわいが生まれる仕組みづくりを考えていく。
15	今後なるべく早急にコストの面をいろんなパターンを想定して出していただきたい。	整備コストと、整備後30年間運営した場合の累計コスト、収支見通しを試算【参考資料４、５】。
16	コスト面、ターゲットの想定などの議論がベースにないと検討していきづらい。数字がないまま議論を進めることができず、数字を示したうえで棲み分けを議論していく必要がある。立体の図を使ったいくつかのパターンを出すことをお願いしたい。	配置案、整備コスト、整備後30年間運営した場合の累計コスト、収支見通しをお示しする【参考資料１、４、５】。
17	Bリーグのようなスポーツチームが誕生したときに、そういったクラブが主体になって管理をしていく場合に経済的な方法を生んでいけるのかを踏まえた議論が必要。	12月９日にBリーグ関係者と協議。SV・Vリーグも含め、今後も関係者と継続的に協議を行っていく。県内でのプロスポーツチームの誕生を視野に入れ、動線や運営手法の視点も含めた施設整備を行っていく。
18	利用料金制か徴収代行制か、その方針を出してほしい。	PFIなど整備・運営手法の検討と合わせて検討していく。

「新県民体育館整備等基本計画検討会」の今年度のスケジュールについて

資料２



新県民体育館整備等基本計画（概要版・素案）

資料３

1　計画策定の背景

高知県立県民体育館は築50年を過ぎ、施設の老朽化が顕著となっているほか、「みるスポーツ」環境の不足が課題となっており、令和６年度の「県立スポーツ施設のあり方検討会」において、座席数5,000席規模の新たなアリーナが必要であるとの方向性が示された。

県民の誰もが気軽に楽しめるスポーツ施設として多世代の交流を促すほか、プロスポーツやエンタメ等を通じたまちづくり・地域活性化の拠点となる施設整備を行うことを目的に、新県民体育館（以下、「新アリーナ」という。）の整備内容や管理・運営方法等について調査・検討し、基本計画として取りまとめる。

県民体育館の再整備等における考え方の方向性（R6年度県立スポーツ施設のあり方検討会）

基本計画策定に向けた重点ポイント

①　スポーツ×エンタメ
- 全国規模の競技大会やプロスポーツの試合、コンサートなど、県内外から若者や子育て世代が集い、楽しめる空間を創出
- 全県規模の競技大会等の主たる施設として整備

②　スポーツ×防災
- 災害発生時において、施設利用者の一次避難が可能な施設として整備

③　同種施設との役割の明確化
- 周辺の同種施設の状況を踏まえ、県立のスポーツ施設として優先的に整備する機能・規模等を整理し実情に即した施設を整備

④　ユニバーサルなデザイン
- すべての人が利用しやすいデザインを考慮した整備

新施設の機能・規模

＜新施設＞
- 必要なフロア面積を確保するとともに、**大規模大会やプロスポーツ、多分野のイベントの開催が可能なアリーナ機能を整備**することが望ましい
- フロアをはじめ、附帯設備などに**多様な活用を想定した機能を整備**することが望ましい
- **災害時の避難を想定した整備**が望ましい
- **誰もが自由に集える憩いのエリア**をつくることが望ましい

＜具体的な内容案＞
- **メインアリーナはバスケットボールコート2面～3面、サブアリーナはバスケットボールコート１面**がとれる広さ
- **メインアリーナは5,000人程度**の観客を収容できる座席数
- 屋外に**憩いのスペースと現状以上の台数を収容できる駐車場**
- **多様な活用を想定した床、音響、照明、会議室・控室**等の機能

※上記はR6年度末時点の検討会における方向性であり、基本計画の配置案の施設規模とは異なる

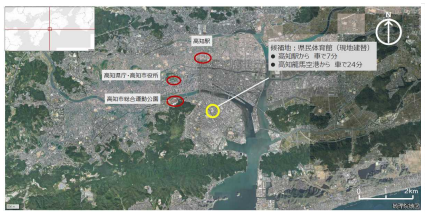
2　計画地の概要

新アリーナは市街地からの公共交通機関を通じたアクセス性を考慮し、現県民体育館の敷地をベースに、隣接の旧南消防署敷地と高知市青年センター（アスパルこうち）のグラウンド敷地を使って新しく生まれ変わることとなる。

新アリーナへのアクセスは、自動車、自転車、歩行者の動線を考慮し、周辺が住宅地であることも踏まえ、誰もが安全に来館し、地域住民に迷惑をかけない動線を配慮する。

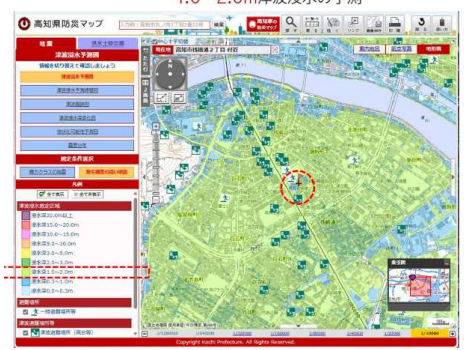
また、敷地が異なる用途地域にまたがることを考慮したうえで、用途変更も視野に入れた施設整備を検討する。

加えて、津波による浸水が想定されるエリアであることから、地域の状況、近隣の避難所の状況などに鑑み、どのような防災機能を有するべきかについて検討を行う。



＜現在の県民体育館＞
計画地：高知県高知市桟橋通二丁目９－１
用途地域：第一種住居地域（7,047㎡）
　　商業地域（3,667㎡）
容積率：268%（加重平均）
建蔽率：66%（加重平均）

L1（発生頻度の高い地震）クラスの発生で
1.0～2.0m津波浸水の予測



L2（南海トラフ地震）クラスの発生で
2.0～3.0m津波浸水の予測

津波浸水予測図

新県民体育館整備等基本計画（概要版・素案）

3　現状・課題

現県民体育館においては、施設自体の老朽化や全国規模の大会を開催する際の設備不足といったハード面の課題に加え、利用者のニーズに適切に対応できていないといったソフト面の課題も指摘されている。

指摘されている課題

① **老朽化等により、修繕コストがかかるとともに利用に支障が生じている**
- **近年、多額の修繕コスト**がかかっており、今後も必要な修繕が見込まれている
- 修繕の工事期間中に利用できない状況が発生
- **音響機器や放送設備、照明器具などが古く**、構造上や在庫の状況から修繕が難しい設備がある

② **土日祝や平日夜間の利用率が高く、ニーズに対応しきれていない**
- 県民体育館の各施設の土日祝及び平日夜間の稼働率はほぼ100%であり、日単位の利用者数も多い
- 周辺施設（体育館・プール）の利用者も多く、稼働率もほぼ100%
- **利用希望者は抽選により決定するが、抽選漏れで利用できない状況がある**

③ **全国規模の大会やイベントなどに対応するためには観客席や駐車場が不足している**
- 観客席：現状（1,572席）
- 駐車場：現状（82台）
- **全国規模の大会やイベントの開催実績が少ない**
- イベントは、コンサート、プロレス、相撲など

④ **プロスポーツなどのトップチームの大会の開催が一部の競技に限定されている**
- トップチームによる試合は、ほとんどが野球やサッカーなどの屋外競技に限定
- **既存の施設では、女性人気が高いバレーボール（Vリーグ）やバスケットボール（Bリーグ）、若者に人気のダンスなどを受け入れることが難しい**
- 全国的にはアリーナ型の施設整備が進んでおり、**新たなスポーツの誘致については、施設面から不利な状況がみられる**

＜県民体育館の修繕費及び修繕内容＞　単位：千円

	H29	H30	R元	R2	R3	R4	R5	R6
修繕費	106,020	0	149,900	11,908	2,662	7,590	12,461	778
修繕内容	・体育館・プール外壁改修 ・吊り天井脱落対策	－	・トイレ改修 ・補助競技場空調 ・モーター制御ユニット交換	天井・水槽壁改修	吐出口修繕	エレベータ修繕	プール躯体爆裂補修・水槽壁等改修	・プール機ガス給湯器交換修繕 ・プール棟トイレ天井補修

＜県民体育館の利用者数及び稼働率＞（ ）は土日祝及び平日夜の稼働率　単位：人

施設	R元	R2	R3	R4	R5	R6	
						利用者(稼働率)	利用人数／日
主競技場	84,656	44,398	48,928	64,347	74,000	73,333 (99%)	205
補助競技場	25,556	19,430	22,310	26,366	30,412	31,210 (99%)	87
プール	61,443	36,763	49,878	59,919	43,161	57,933 (99%)	201
合計	171,655	100,591	121,116	150,632	147,573	162,476	-

＜高知市が管理する施設の利用状況：R６年度＞

高知市 総合運動場	利用者数 （人）	稼働率 （土日祝・平日夜）
体育館(主)	91,367	99%
体育館(補助)		99%
プール	71,307	99%

高知市 東部総合運動場	利用者数 （人）	稼働率 （土日祝・平日夜）
体育館（※）	27,017	94%
プール（※）	47,324	99%

※体育館：10月～5月、プール：6月～9月

＜県民体育館で開催した全国規模の大会やイベントの実績＞

項目	R元	R2	R3	R4	R5	R6
全国大会	2件	0件	1件	2件	2件	1件
イベント	0件	1件	3件	2件	0件	2件

＜県内で開催した主なプロスポーツやトップリーグの大会の実績＞

R2	R3	R4	R5	R6
・プロ野球PSM ・JFL公式戦 ・プロゴルフ公式戦	・プロ野球PSM ・JFL公式戦(サッカー) ・プロゴルフ公式戦 ・ラグビー公式戦	・プロ野球PSM ・JFL公式戦(サッカー) ・プロゴルフ公式戦 ・JCL(自転車) ・ソフトアジアカップ	・プロ野球PSM ・JFL公式戦(サッカー) ・プロゴルフ公式戦 ・JCL(自転車) ・ソフトアジアカップ ・Wリーグ（女子バスケ） ・天皇杯（サッカー）	・JFL公式戦(サッカー) ・プロゴルフ公式戦 ・Wリーグ（女子バスケ） ・天皇杯（サッカー）

4　基本コンセプト

新アリーナの整備により目指す姿や基本的な考え方を以下のとおり整理した。

目指す姿

- **新アリーナを核とした「まちづくり」「地域活性化」**を進めることで、スポーツ、文化、観光、経済などの分野で一層の振興を図る
- **県内外から老若男女、特に若者や子育て世代を中心に多世代が集まり交流**することで、関係人口や交流人口の増につなげる
- アリーナが子どもたちの健やかな成長を促し、**地域の防災力を向上させる施設**として活用される

基本理念

**誰もがスポーツの楽しさや感動を得られ、プロスポーツやエンタメ、文化などを通じた
まちづくり・地域活性化の拠点となる施設整備を行います。**

基本方針

① **まちづくりの拠点**
県民や県外から来られた方が親しみ、愛着を持ち、交流人口や関係人口の拡大につながる、**まちづくりやコミュニティの形成のハブとなる施設**を目指します。

② **スポーツ振興の拠点**
県民の誰もが気軽に楽しめるスポーツ施設として多世代の交流を促すほか、**若い世代のアスリートの育成や県民のニーズに合ったスポーツを「する」ことができる施設**を目指します。

③ **にぎわいの拠点**
プロスポーツのハイレベルな試合を観戦することにより憧れや感動を抱かせ、**スポーツを「みる」という文化を定着**させます。
また、コンサートや展示会などの様々な催しが開催されることで、**県外から多くの方が本県を訪れ、飲食や宿泊、観光産業が潤い、地域活性化につながっていく**ことを目指します。

④ **安心・安全な拠点**
県民の誰もが使いやすく安全・安心な施設となるよう、**ユニバーサルデザインを取り入れた施設**とします。
また、災害等が発生した場合において、**施設利用者の一時避難が可能な施設**とします。

整備方針

① メインアリーナとサブアリーナを備え、**「スポーツ」×「エンタメ」を実現し、多目的に活用できる施設**として整備

② **プロスポーツ**のレギュレーションや**コンサート等の興行に適した規模・機能**の整備

③ 老若男女、**特に若者や子どもが集い、多世代で楽しみ、交流できる憩いの空間や現状以上の駐車場**の整備

④ 県立武道館の老朽化に伴い、武道館を移転・集約化し、新たな機能を備えた施設として整備

⑤ 「稼げる」施設となるよう、**諸室の効率的な運用や飲食スペースの設置などが可能な整備**

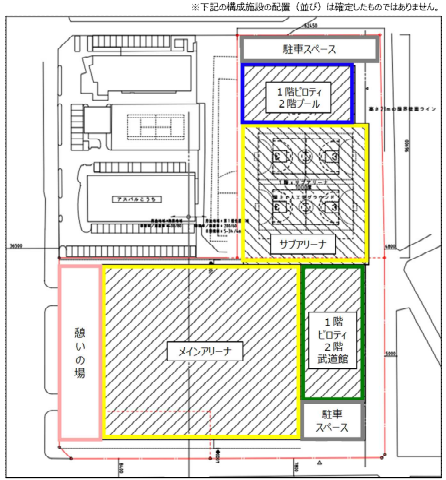
⑥ **ユニバーサルデザイン**に対応した整備

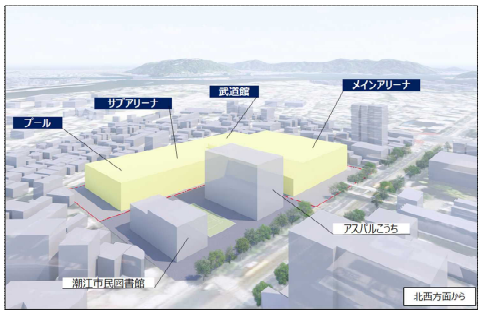
⑦ **災害時の避難機能**を備えた整備

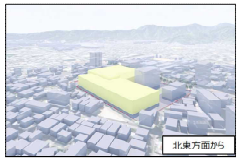
⑧ 県の財政状況も踏まえ、**コスト圧縮や国の有利な起債なども積極的に活用**

5　施設整備計画

※下記の構成施設の配置（並び）は確定したものではありません。







＜敷地や施設の概要＞

【敷地】

現在の県民体育館、旧南消防署敷地、アスパルこうちグラウンド（全面）

【主な施設規模】

メインアリーナ：バスケットコート３面、観客席5,000席以上、床面は土間コンクリート
・壁面に収納できる可動席の設置を想定
・センターハングビジョンなど重量物の吊り下げが可能な強度の天井
・搬出入口を２ヶ所以上確保

サブアリーナ：バスケットコート２面、観客席1,000席程度、床面は木製フローリング
・屋上に人工芝等による運動・活動スペースを設置

武道館：試合場３面、片面にひな壇型の観客席300席程度

プール：25m×８コース程度（うち１コースはスロープ）

憩いの場：メインアリーナ西側などに配置

駐車場：250台以上（地下駐車場を含む）

※延床面積約17,500㎡（ピロティ、地下駐車場除く）。ただし、現時点で想定する面積であり、設計段階で変動することがある

※メインアリーナ等の施設の中に、各諸室を設置する。具体的には、管理事務室、会議室、更衣室、トイレ、授乳室、控室、医務室、倉庫、機械室、VIPルーム、メディアルームなど

メインアリーナ

これまで本県で開催ができなかったアマチュア競技の全国大会やプロスポーツの試合、音楽コンサート、大規模展示会などのMICEを開催

＜主な利用用途＞
○競技大会（県内大会～全国大会規模）
○プロスポーツ（バスケットのBリーグ、バレーボールのSV・Vリーグなど）の開催
○音楽コンサート（3,600人収容規模）
○展示会等のMICE
○各種イベント（成人式など）

サブアリーナ

○競技大会をサブアリーナ単体で開催可
○屋上には運動や活動ができる人工芝等のスペースを設置
＜主な利用用途＞
○県内の競技大会など

武道館

○武道大会や練習の場として活用
○パーテーションの間仕切りによる３つの諸室として活用可
○大規模な武道大会は、サブアリーナやメインアリーナを活用可

プール

○障害のある方の利用、将来的な学校の水泳授業の受けこみを想定し、「子どもから高齢者、障害のある方まで誰もが使いやすいインクルーシブなプール」を設置

憩いの場

○来館者が屋外でくつろげ、イベント時や休日にキッチンカーなどを配置し、にぎわいを創出
○サブアリーナとアスパルこうちの建物間のスペースや屋上スペースも憩いの場として活用を検討

駐車場

○ピロティや地下などで相応の台数を確保

高知市への教育的配慮

高知市の教育施設が使っていたグラウンドの敷地に新アリーナの施設を建設することから、高知市教育委員会が要望する「教育的な配慮」について、最大限の配慮を行うこととして基本計画に盛り込み、設計段階で具体的な内容を反映させる

＜具体的な内容＞
○代替措置として、グラウンド敷地に建つサブアリーナの屋上に人工芝等を敷設し、児童・生徒が運動や活動ができるスペースを設置し、曜日・時間帯による優先的な使用を行っていただく
また、土のグラウンドが必要な場合には、旧高知南中高グラウンドを優先的に使用いただく
○サブアリーナとアスパルこうちの建物は一定の距離（15m以上を想定）を確保し、建物の圧迫感の軽減に努める
○新アリーナの周辺に花壇や樹木などの自然植栽を設置し、児童・生徒が土や草木、虫に触れられるようにする
○加えて、以下の取組などにより、教育面でのアリーナの活用・寄与を考えていく

＜教育環境の向上に向けた取組案＞
○プロスポーツの試合に小中学生を招待（一定枠・無料）
○スポーツを通じた体験学習
○小中学生を対象にしたアリーナ内部や、SDGsの取組を学ぶ社会科見学（バックヤードツアー）
○アリーナを活用した防災教育

6　交通手段、駐車場、動線

交通手段

＜電車・バス＞
○来館者には、原則的に公共交通機関を利用しての来館を促す
○大規模イベントには路面電車やバスの臨時的な増便に向けて運営主体のとさでん交通株式会社と協議していく

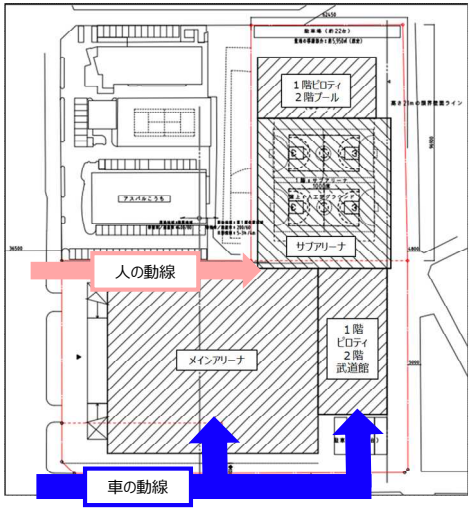
＜自動車＞
○周辺での渋滞や混雑の発生を極力少なくするため、車両進入路などの誘導板の設置を検討
○大規模イベント時には、施設内の駐車場では不足する可能性があるので、旧高知南中高のグラウンドを臨時駐車場として活用することを検討

駐車場

○地下駐車場を含め250台以上の駐車場を確保する
○電源や中継車用の駐車場を確保する
○施設内の駐車場は、大会やイベントの主催者や、出展事業者の利用を優先する
○大規模イベント時には、施設内の駐車場では不足する可能性があるので、旧高知南中高のグラウンドを臨時駐車場として活用することを検討（再掲）
○イベント時に有料にするなど、駐車場利用による収入の確保を検討
○周辺の有料駐車場と提携した割引利用の運用を検討

動　線

○人の動線と車の動線を分け、歩行者の安全に配慮
○周辺に住宅地や教育施設、公園があることに配慮した動線とする
○イベント時の行列や待機場所を想定し、周辺に混雑が発生しないよう配慮
○車の動線は敷地南側の市道とする
○設営・撤去を行う大型トラックなどは、敷地南側の市道から直接メインアリーナのフロア（土間コンクリート）に進入できるようにする
○搬入出口は、大型トラックが直接乗り入れることができる十分な間口、高さを確保し、段差のない構造とする



7　整備にあたっての配慮事項

①ユニバーサルデザインへの配慮
○ピクトグラムなど、子どもから高齢者、障害のある方、外国人の方にとって分かりやすい案内表示とし、視覚や音声による情報伝達に配慮するなど、来館するすべての人々が利用しやすい施設とする
○エレベーターやスロープなどにより、車椅子利用者が円滑に車椅子用客席をはじめとする施設内外へアクセスできるよう配慮し、すべての人々が安全で利用しやすい動線を計画する

②安全性への配慮
○大地震発生時などの非常時において、メインアリーナの２階以上の観客席やコンコース、サブアリーナの屋上などに緊急一時避難ができ、収容可能人数分の備蓄を保管するスペースの確保など、防災対策を講じる
○医務室を設置し、施設外へ通じる通路やドアは、担架や車椅子が支障なく通行できるだけの広さを確保するなどの緊急医療対策を想定した設計とする
○試合やイベントの警戒レベルに応じた手荷物検査等が実施できるよう計画するなどのセキュリティ対策を想定した設計とする

③快適性への配慮
○どの観客席からもフロア全体が見渡せ、競技者や演技者に近い位置に観客席を設置する
○観客席は、隣や前の席との間を一定とり、ドリンクホルダーの設置や座りごこちなど快適性へ配慮する
○競技大会や式典などの開催に必要な照明や音響、空調の水準を確保する
○音楽コンサートなどに必要な照明や音響の機材は主催者が持ち込むことを想定し、相応の演出が可能な設備水準を確保する
○Wi-Fi環境など、最新鋭の通信環境を整備し、施設利用者の利便性向上に配慮する

④環境への配慮
○周辺に住宅地や教育施設があることに配慮した施設の外観デザインとする
○周辺駐車場の空き情報の提供など、周辺道路においてスムーズな通行の確保に配慮する
○アリーナ外への音漏れや振動が生じないような防音・防振対策を講じる
○省エネルギー性に優れた設備機器を積極的に採用するなど、コスト面、環境面に配慮する
○周辺には樹木などの植栽を配置する

新県民体育館整備等基本計画（概要版・素案）

8　概算事業費

・過去10年間（2014年以降）に着工したプロスポーツ利用又はコンサート興行利用に対応し、延床面積が10,000㎡以上かつ最大収容人数が概ね5,000人以上のアリーナ施設の情報を収集
・オープンハウスアリーナ太田、あなぶきアリーナ香川、SAGAアリーナ、沖縄アリーナなど11施設の整備費をもとに、1㎡あたりの整備単価の平均を算出（72.4万円／㎡）
・各施設の着工時期が異なるため、建設費高騰の係数補正を行ったうえで、R7年度現在の１㎡あたりの整備単価を試算（93.9万円／㎡）
・延床面積17,500㎡×93.9万円／㎡＝164.3億円

※下記の延床面積には、ピロティと地下駐車場の面積は含めない

費目	計上すべき費用		新アリーナ 延床面積17,500㎡	備考
解体費	現県民体育館及び旧南消防署の解体費		9.6億円	設計事務所の見積
整備費	建設費	新アリーナの建設費 ※ピロティ、地下駐車場、人工芝の整備費を除く	**164.3億円**	**他のアリーナにおける建設費単価の平均値に、物価高騰を反映させた建設費単価93.9万円／㎡を採用** ※R7年４月現在予測
		ピロティ（駐車場）の建設費	7億円	設計事務所の見積
		地下駐車場の建設費	16億円	
		人工芝の整備費	0.9億円	
	外構工事費（＋駐車場）		3.5億円	設計事務所の見積
	設計費		4.7億円	
	調査費		0.4億円	
	施工監理費		2.5億円	
	合計金額		**208.9億円**	

・この他、備品の整備費用が必要。 ※参考：あなぶきアリーナ約11億円
（センターハングビジョン、リボンビジョン、デジタルサイネージ、木製フローリングパネル、移動式観覧席、バスケットゴール一式　など）

着工が予定される令和10年には、さらに建設費高騰が見込まれ、近年の上昇率から1.03～1.19倍に高騰することが予想される

9　収支の見通し

○年間の収支見通しから、県の財政負担（指定管理代行料）は１億円～1.3億円程度が見込まれる

＜試算の考え方＞
○**収入**
・貸館収入は、プロスポーツ、音楽コンサート、MICE、競技大会などの年間利用日数（第３回新県民体育館整備等基本計画検討会の資料に基づく）に、他県の類似のアリーナ15施設における利用料金の平均値を掛けて算出。利用料金は、平日・土日祝日、アマチュア・アマチュア以外、入場料の徴収あり・なしによって区分して設定
・貸館以外収入は、備品貸出、VIP室利用、ネーミングライツ、広告掲出料、物販飲食、駐車場収入などが考えられ、他のアリーナの事例や本県の状況を踏まえ試算
・開館初期と充実期におけるプロスポーツや音楽コンサート、MICEなどの日数は第３回新県民体育館整備等基本計画検討会で示した利用日数シミュレーションに基づく
○**支出**
・他県の類似のアリーナ16施設の支出実績を踏まえ、プールがある施設とプールがない施設それぞれの延床面積１㎡あたりの運営単価を算出し、その単価を本県の新県民体育館の延床面積17,500㎡に掛けて試算

（単位：千円／年）

費　目	開館初期 （１～５年目）	充実期 （６～30年目）	備　考
貸館収入	113,764	135,663	
メインアリーナ（興行）	81,956	97,404	プロスポーツ、音楽コンサート、MICE
メインアリーナ（県民利用）	16,601	16,913	競技大会、文化系イベント
サブアリーナ	9,068	9,068	競技大会
マルチスペース	6,139	12,278	
貸館以外収入	26,098	38,020	
収入合計	139,862	173,683	

費　目	開館初期 （１～５年目）	充実期 （６～30年目）	備　考
人件費	46,393	46,393	
維持管理費	202,633	202,633	光熱水費、設備保守管理費、修繕費
その他	22,453	22,453	
支出合計	271,478	271,478	
指定管理代行料	131,615	97,795	

10 経済波及効果

＜利用者数と観光消費額＞

利用者数（年間推計）	約35万人	県外観光客がもたらす観光消費額（年間推計）	約16億円

※利用者数と観光消費額は、令和７年10月22日に開催した「第３回新県民体育館整備等基本計画検討会」で示した年間利用日数シミュレーションに基づく「充実期」の想定値。また、利用者数は、プールを現有地で整備する方針となったため、プール利用者数約５万人を加えた数に更新している

＜経済波及効果＞　完成後30年間で1,000億円を超える効果が見込まれる

【算出方法】
○高知県経済波及効果簡易分析ツール（平成27年表バージョン）を用いて、県内の消費、投資等の需要の増加がもたらす県内への経済波及効果を推計
○試算する経済波及効果の期間は30年間とし、年間利用日数シミュレーションで設定した「開館初期」（１～５年目）、「充実期」（６～30年目）の日数に基づき、30年間の累計金額を試算
○スポーツ興行は、チケット収入・飲食費・グッズ購入費・宿泊費。コンサート興行は、チケット収入・グッズ収入。展示会などのMICEは、飲食費・買物・娯楽費・宿泊費。競技大会・文化系イベントは飲食費・宿泊費とする
○１催事あたりの来場者数や消費単価は、県内の現状や他県の事例をもとに設定

経済波及効果の総額（30年間）　（単位：百万円）

	直接効果	第１次波及効果	第２次波及効果	総合効果
建設による波及効果	19,170	5,742	3,490	28,402
維持管理運営による波及効果	11,206	2,830	1,987	16,022
イベント来場者による波及効果	37,491	12,693	5,990	56,175
合計	67,867	21,265	11,467	100,599

直接効果……自地域内の各産業分野で誘発された生産額
第１次波及効果…直接効果によって生じる原材料等の中間需要によって起こる波及効果
第２次波及効果…直接効果と第１次波及効果で増加した雇用者所得のうち消費に回された消費需要により新たな生産を誘発する効果

11 周遊促進計画

新アリーナを核にした「まちづくり」「地域活性化」の取り組み（案）

○プロスポーツの試合や音楽コンサートなどの開催
・これまで本県で得ることが難しかった新しい体験を提供し、「感動」や「熱狂」、「活気」を生む
・関西圏を中心に、県と関係性のある屋内プロスポーツチーム等による教室開催や合宿誘致等を推進
・Bリーグ、SVリーグなどの屋内プロスポーツ等のプレシーズンマッチ等の招聘
○展示会などMICEの開催
・ぢばさんセンター大ホールで行っている展示会等を開催できる態勢を確保
・新たなMICEの掘り起こしなど、市中心部での新たな経済効果を生む

⇒プロスポーツやMICEの誘致に向けたプロジェクトチームの設置を検討

○アリーナを中心とした滞在時間増・観光消費増を目指す取り組み
・アリーナの利用前後で主要な観光地や商店街等を巡り、飲食や宿泊など滞在時間を伸ばし、来場者の消費喚起を促す仕組みづくり
・市街地の駐車場の利用促進（「まちなか」駐車場割引）
・公共交通機関の利用促進
・旅館やホテルと連携した宿泊プランの造成
・アリーナを活用した修学旅行（防災教育）向けの商品造成

⇒スポーツやアリーナを通じた「まちづくり」をテーマにしたワークショップの開催を検討

○若者に関心の高いアーバンスポーツやeスポーツの大会やイベント
・ダンス、eスポーツなど、新たなジャンルのスポーツを「見る」「する」体験
○「よさこい」など観光イベントの会場としての活用
・天候に左右されない利点を生かした観光イベントの会場として活用
・「よさこい踊り」や「アニメ・まんが」など本県が誇る文化のイベントの会場として活用
○イベントの開催がない日でも賑わいを生む設え
・キッチンカーなどによる飲食の提供、良心市、屋外マーケットなどによる物販
・学生の勉強スペースや社会人のワーキングスペースの設置を検討
・フィットネスジムやランニングコースの設置を検討
○地震等の災害時には、地域住民や利用者の緊急一時避難所や避難所として活用
・地域の自主防災組織と共に避難所運営マニュアルの作成に協力し、災害時の地域住民の受入れや避難所運営を円滑に行うための日常的な広報や防災訓練を実施

新県民体育館整備等基本計画（概要版・素案）

12 防災機能のあり方

現状・課題

<津波浸水予測図>

○津波浸水エリアに立地しており、南海トラフ地震（L2）クラスの発生で、2～3mの津波浸水、津波到達時間40～60分が予想される。
○現在の県民体育館は、「指定一般避難所」に指定されているが、指定緊急避難場所」には指定されていない。
○「洪水」「土砂災害」「津波」のほか、「内水氾濫」や「高潮」の浸水想定区域としての指定も視野に入れ、地域の防災力の一層の向上を目指し整備することが望ましい。

方向性

（1）指定緊急避難場所について
○「洪水」「土砂災害」「津波」のほか、「内水氾濫」や「高潮」においても、これらのハザードを対象とした緊急避難場所の指定を見据えた規模・構造
○津波避難ビル指定に際し、第３次高知市備蓄計画に基づく資機材の保管スペースをメインアリーナ等の２階以上に確保
○有事の際の地域住民の速やかな受入れはもとより、これを円滑に行うための日常的な広報や防災訓練の実施

（2）指定避難所について
○台風・風水害はもとより、南海トラフ地震においても揺れや津波の被害を免れた際の避難所の指定
○施設全体のうち指定避難所の収容人数及び居住スペースとして可能なエリア・範囲を考慮した設計
○収容可能人数分の備蓄スペースの確保
○避難所の指定後は、地域の自主防災組織と共に避難所運営マニュアルの作成に協力し、有事の際の地域住民の受入れや避難所運営を円滑に行うための日常的な広報や防災訓練を実施

（3）その他
○南海トラフ地震を想定し、電気やガス、通信（Wi-Fi、電話）等のインフラについて、耐災害性の考慮（例：太陽光発電・蓄電池、空調整備の熱源をプロパンガスや、都市ガスとプロパンガスの併用にするなど）
○避難所の食事の質や生活用水、トイレ環境といった良好な生活環境を提供することに努め、発災後にも活用可能な調理設備や入浴設備等の整備を検討
○高知市の教育施設との連携した避難訓練の実施

13 事業スケジュール

○新アリーナの事業スケジュール、従来手法＋指定管理者制度を想定して次の表のとおり。
○整備・運営方法について、例えば、設計施工一括発注方式(DBO)やPFI（BTO）方式などの手法に変更する可能性がある。その場合は、スケジュールの見直しを適宜行うこととする。

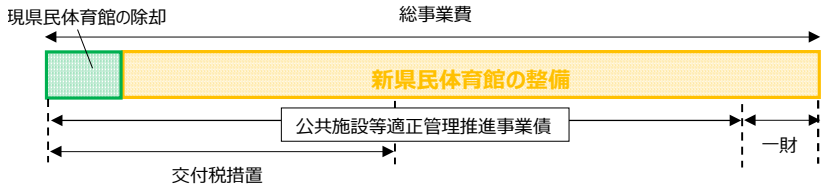
R7年度（2025）	R8年度（2026）	R9年度（2027）	R10年度（2028）	R11年度（2029）	R12年度（2030）
基礎調査・基本計画	基本設計	実施設計	建設工事		供用開始
	解体設計	事前調査	解体工事		
	地質調査 測量調査				

14 財源内訳についての考え方

概算事業費　約210億円　　うち公共施設等適正管理推進事業債186億円
※県の実質負担額　117億円

※「８　概算事業費」で示した試算に基づき、公共施設等適正管理推進事業債の対象事業費を207.4億円と見込み、充当率90%で起債額は186億円、交付税措置率50%を踏まえ、国からの支援額は93億円と試算

＜公共施設等適正管理推進事業債の充当イメージ＞

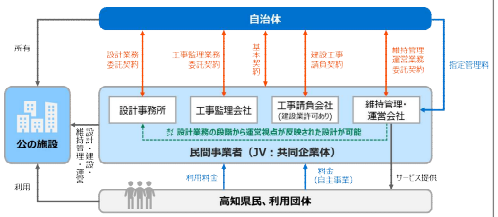
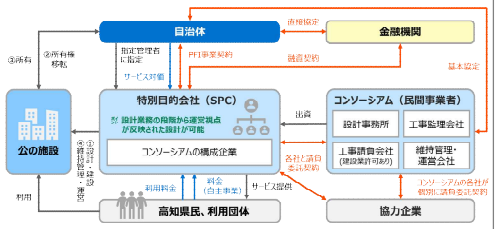
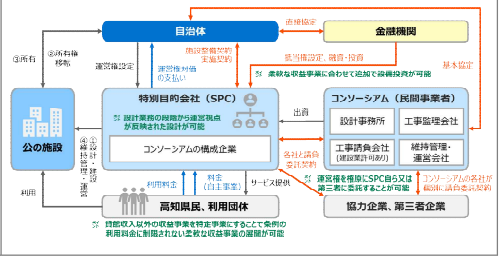


○公共施設等適正管理推進事業債は、対象事業費における起債充当率90%、交付税措置率50%の有利な制度
○公共施設等適正管理推進事業債の充当における集約化・複合化の対象施設に県立武道館及び高知ぢばさんセンター大ホールを含める場合は、その除却費用も起債対象となりうる
○クラウドファンディングや企業版ふるさと納税など、民間資金の活用も視野に入れる

15 事業手法

事業手法は、本施設整備の特性を踏まえて、施設建設や管理運営の検討方針について、「県の財政負担が軽減されること」「民間ノウハウが効果的に発揮されること」「一定の県民利用が確保されること」の３つの目的が達成できる事業手法及び管理運営手法を抽出しています。

今後は民間企業意向調査を踏まえたうえで、定性的・定量的（VFM：Value for Money）評価を行い、総合評価を行うとともに、各事業手法で適用する場合のポイントを踏まえて望ましい事業手法を選定します。

事業手法及び管理運営手法	概要	事業スキーム図
DBO方式	• 公の施設の目的を効果的に達成するため、民間事業者に公の施設の管理を行わせる制度。 • 毎年の指定管理料の支払いが発生する。 ポイント 早期に施設を開業する場合やPFI事業での市場環境が構築できない場合	
PFI（BTO）方式	• 民間事業者のノウハウや資金を活用して、公共施設等の事業化を行う制度。 • 独立採算ができない場合は、サービス対価の割賦払いが発生する。 ポイント 主に性能規定による管理運営を行う場合	
BT+公共施設等運営権（コンセッション）方式	• 施設の所有権を公共が有したまま、施設の運営権を民間事業者が有する制度。 • 運営権を抵当権に追加投資と柔軟な運営が実現できる。 ポイント 収益向上やバリューアップが期待できる場合	

新県民体育館の配置案の平面図及び立体図（イメージ）

参考資料１

敷地・施設規模

※施設規模は現時点の想定であり、今後の検討で変更の可能性あり

【敷地】
現在の県民体育館、旧南消防署敷地、アスパルこうちグラウンド（全面）

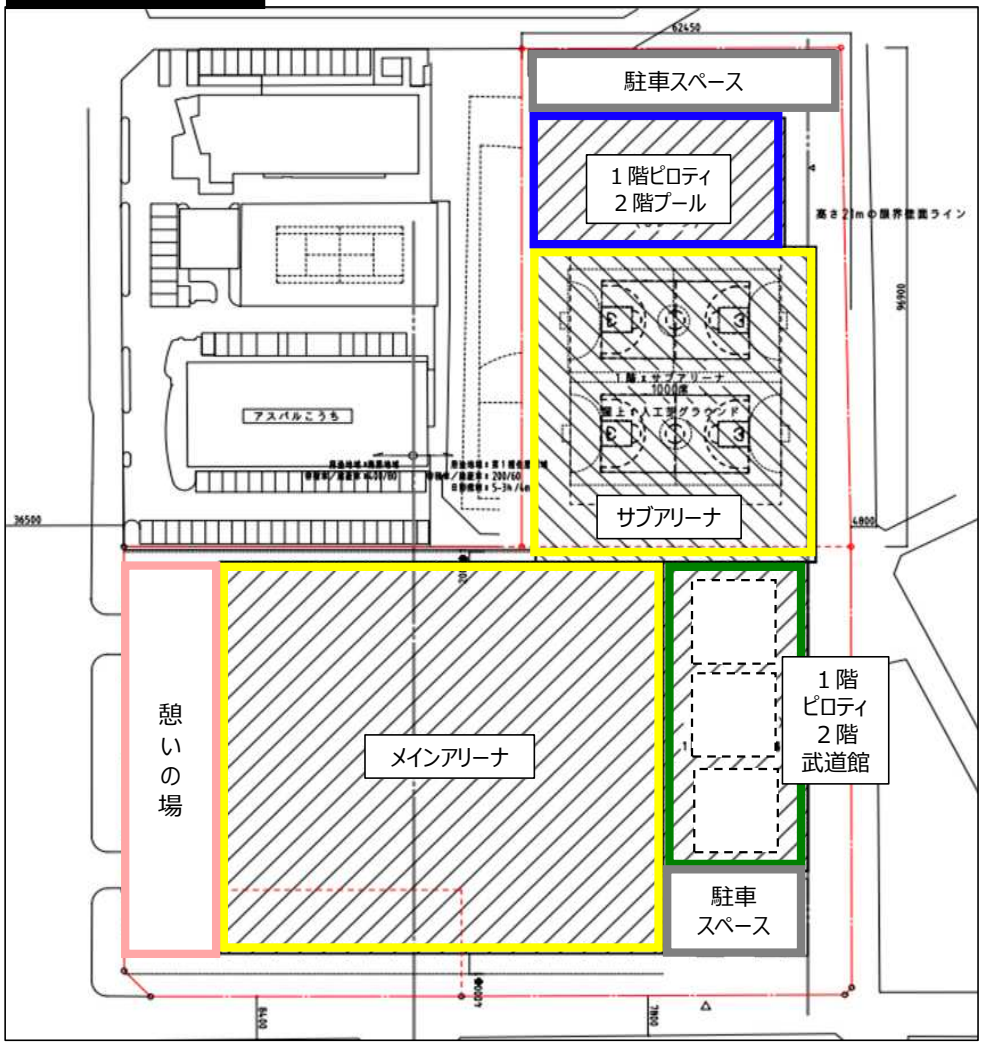
【主な施設規模】　※延床面積約17,500㎡（ピロティ、地下駐車場除く）
メインアリーナ：観客席5,000席以上
サブアリーナ　：バスケットコート２面＋観客席1,000席程度
武道館　　：試合場３面
プール　　：25m×８コース（うち１コースはスロープ）
駐車場　　：250台以上（地下駐車場を含む）

特徴・ポイント

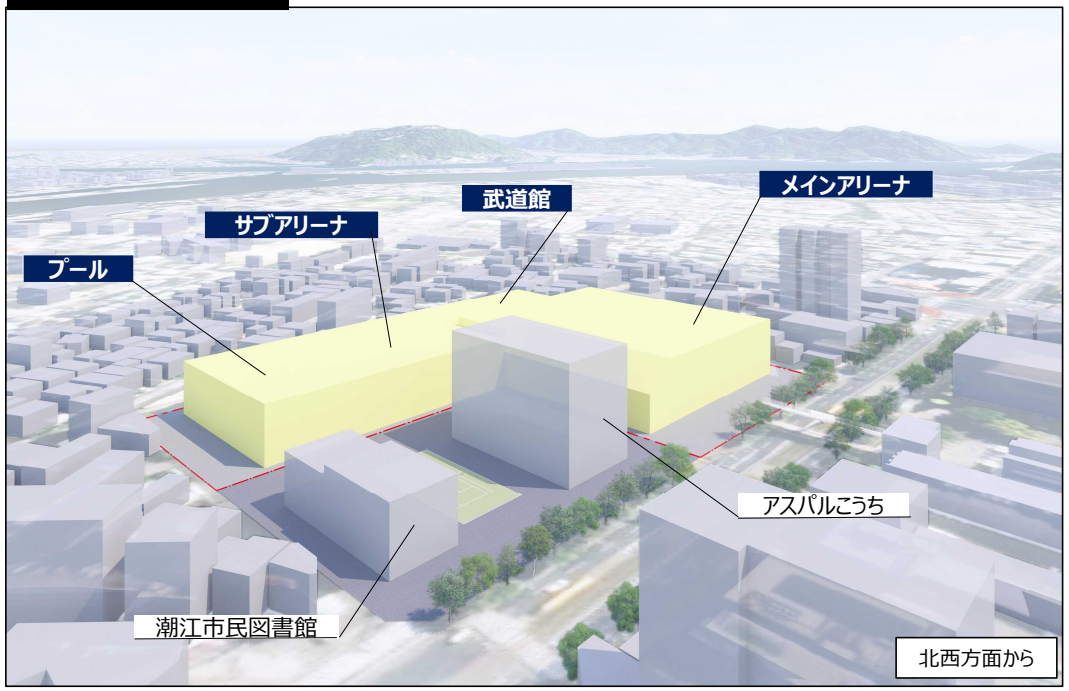
○**メインアリーナはプロスポーツの試合やコンサート、展示会等のMICEなどに対応**する規模、機能とする
○**サブアリーナは競技大会の開催に必要な規模を確保**。屋上には運動や活動ができる**人工芝等のスペースを設置**
○要望のあった**プール**は障害のある方の利用、将来的な学校の水泳授業の受けこみを想定し、**「子どもから高齢者、障害のある方まで誰もが使いやすいインクルーシブなプール」**を設置
○**地下駐車場**を設置し、現状の駐車場（82台）から大幅に増やす
○憩いのスペースは電車通り沿いのメインアリーナ正面前に配置

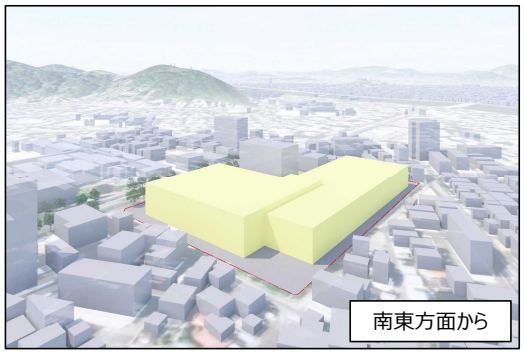
平面図

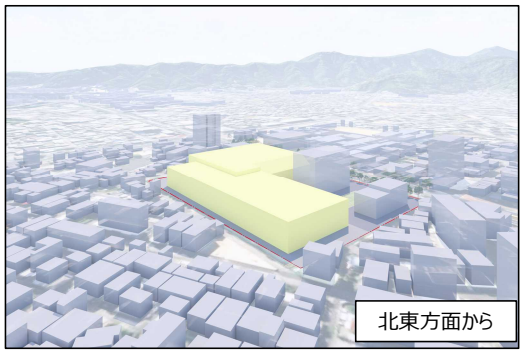
※下記の構成施設の配置（並び）は確定したものではありません。



立体図（イメージ）







アスパルこうちのグラウンドを使用する場合の高知市教育委員会の要望に対する県の対応

参考資料２

■新県民体育館（以下、「新アリーナ」という。）の整備にあたり、アスパルこうちのグラウンド（敷地）を使用する場合は、高知市教育委員会が要望する「教育的な配慮」について、**最大限の配慮を行うこととして基本計画に盛り込み、設計段階で具体的な内容を反映させる**。

※①～⑥の要望内容は、令和７年10月１日付けで高知市教育委員会から提出された「アスパルこうちグラウンドを新県民体育館整備に活用する場合の要望」に基づく

① 土のグラウンドを少なくとも半面残すこと

② 教育支援センター・学びの多様化学校の活動のための屋外スペースや自然体験の機会の確保

③ 自然環境を生かした学びと情緒安定の場づくり

※１～３については、関連するので一体的に回答

○アスパルこうちのグラウンドについて、新アリーナの敷地として**全面使用**をさせていただきたい
○代替措置として、グラウンド敷地に建つ**サブアリーナの屋上に人工芝等を敷設**し、**児童・生徒が運動や活動ができるスペースを設置**し、曜日・時間帯による**優先的な使用**を行っていただく。また、グラウンドが必要な場合には、旧高知南中高グラウンドを**優先的に使用**いただく
○サブアリーナとアスパルこうちの建物は一定の距離（15m以上を想定）を確保し、建物の圧迫感の軽減に努める
○新アリーナの周辺に**花壇や樹木などの自然植栽**を設置し、児童・生徒が**土や草木、虫に触れられる**ようにする
○サブアリーナを利用いただくことで、空調の効く環境下で運動をしていただくことも可能
○地震等の災害時に児童・生徒が緊急一時避難ができるように避難場所の指定を受けるとともに、アスパルこうちと避難訓練を一緒に行うことも検討
○工事期間中の騒音や振動に対し可能な限り抑制するよう配慮する

④ グラウンド全面を利用する利用者団体への代替場所の確保

○現在の使用状況を踏まえ、旧高知南中高グラウンドを含む市内の公的施設が所管するグラウンドの情報提供を行う

⑤ 運営ルールの柔軟な見直しと継続的協議の仕組み

○新アリーナの開館後も、施設管理者と高知市教育委員会の定期的に協議の場を持つこととする

⑥ 新県民体育館の整備に伴い支障となるアスパルこうちグラウンド照明柱やフェンスの整備（移設や新設）

○夜間照明について、旧高知南中高グラウンドへの照明柱の移設や新設までは考えていない。例えば、グラウンドの一部を照らすなど、夜間でも一定の運動ができる照明設備の整備を検討。フェンスの設置については、高知市教育委員会と協議していく

＜教育環境の向上に向けた取組案＞

・プロスポーツの試合に高知市内の小中学生を招待（一定枠・無料）
・スポーツを通じた体験学習
・小中学生を対象にしたアリーナ内部や、SDGsの取組を学ぶ社会科見学（バックヤードツアー）
・アリーナを活用した防災教育

新県民体育館の整備により目指していく姿と取り組み

参考資料３

〇新県民体育館（アリーナ）を核とした「まちづくり」「地域活性化」を進めることで、スポーツ、文化、観光、経済などの分野で一層の振興を図る
〇県内外から老若男女、特に若者や子育て世代を中心に多世代が集まり交流することで、関係人口や交流人口の増につなげる
〇アリーナが子どもたちの健やかな成長を促し、地域の防災力を向上させる施設として活用される

スポーツ

〇スポーツ活動・競技大会
- 中学生や高校生などの県内競技大会はもとより、四国大会・全国大会などの開催に使用。これまで開催できなかったアマチュア競技の全国大会の誘致の可能性
- これまでの競技大会やスポーツ活動は、サブアリーナに大会が開催できる広さと機能を持たせ、旧高知南中高の体育館も活用し、競技場所を確保
- さらに、武道、プールなどを含めた県民の日常的なスポーツ活動の機会を確保し、競技力の向上、健康づくり・生きがいづくりを推進

〇プロスポーツの試合
- 将来的な地元プロスポーツチームの発足を視野に入れ、プロスポーツ（バスケットボールのBリーグ、バレーボールのSV・Vリーグなど）の試合を開催
- 目にしたことのない感動や熱狂を生み、スポーツの裾野の拡大や競技力向上にも寄与

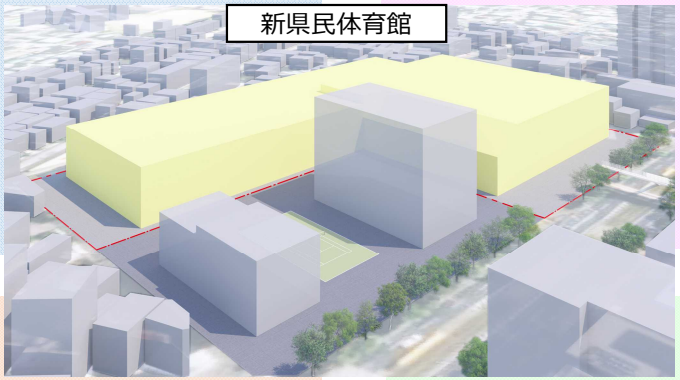
〇若者に関心の高いアーバンスポーツやeスポーツの大会やイベント
- ダンス、eスポーツなどの観戦、体験

観光

〇アリーナを核にした滞在時間増・観光消費増を目指す取り組み
- アリーナの利用前後で商店街等を利用してもらう仕組みづくり（飲食や宿泊の利用促進、駐車場の確保、公共交通機関の利用促進）
- 旅館やホテルと連携した宿泊プランの造成
- アリーナを活用した修学旅行（防災教育）向けの商品造成

〇「よさこい」など観光イベントの会場としての活用
- 天候に左右されない観光イベントの会場として活用。特に近年の酷暑により、屋外の会場に代わるイベント会場として選ばれる可能性
- 最大5,000人規模を収容できる観客席、キッチンカーなどを配置できる憩いのスペース、屋上の芝生スペースなど、イベント開催に必要な機能を確保

〇音楽コンサートやプロスポーツの開催による県外観光客の増
- 会場規模の制約でこれまで本県で開催できなかったアーティストのコンサートが開催できる可能性
- プロスポーツのアウェイチームのファンが来高



〇アリーナを核に地域のにぎわいを創出
〇若者を中心とした多世代が集まるハブの役割

文化・教育・防災

〇音楽コンサートや演劇などの開催
- 「よさこい踊り」や「アニメ・まんが」など本県が誇る文化のイベントの会場として活用

〇よさこいやアニメなど本県ならではの魅力の発信
- これまで本県で開催していないコンサートや演劇の開催
- 成人式、卒業式、入社式などの会場として活用

〇子どもたちの健やかな成長を促す場としての活用
- プロスポーツの試合への児童生徒の招待
- アリーナ内部やSDGsの取組を学ぶ社会科見学（課外授業）
- 勉強ができるスペースの確保
- 将来的な学校プール授業の受け込み

〇防災機能の強化
- 地震等の災害時の利用者と地域住民の緊急一時避難場所、避難所
- 必要な備蓄物資の保管、防災教育を学ぶ場としての活用

経済

〇展示会などMICEの開催
- ぢばさんセンター大ホールで行われている展示会などのMICEをアリーナで開催可能と想定
- 関西戦略と連動した新たなMICE開催の誘致

〇にぎわいの創出
- テナントなどによる飲食の提供、キッチンカーや良心市などの物販

〇経済効果
- 既存の競技大会に加え、地元プロスポーツチームがホームアリーナとして活用し、音楽コンサートや展示会などのMICEの開催が増えていくと、年間の利用者数約35万人、県外観光客の観光消費額約15.9億円の経済効果が見込まれる

〇財政負担の軽減と公共資源の効率的な活用
- 老朽化が進む武道館や障害者スポーツセンターのプール等の公共資源の機能集約化による財政負担の軽減を図る
- 現在活用されていない南消防署跡地の利活用

整備コスト及び完成後30年運営した場合の累計コスト（概算費用）

参考資料４

※下記の延床面積には、ピロティと地下駐車場の面積は含めない

費目	計上すべき費用		サブアリーナ（バスケコート１面） 延床面積14,100㎡	サブアリーナ（バスケコート２面） 延床面積17,500㎡	備考
解体費	現県民体育館及び旧南消防署の解体費		9.6億円	9.6億円	設計事務所の見積
整備費	建設費	新県民体育館の建設費 ※ピロティ、地下駐車場、人工芝の整備費を除く	132.4億円	**164.3億円**	**他のアリーナにおける建設費単価の平均値に、物価高騰を反映させた建設費単価93.9万円／㎡を採用** ※R7年４月現在予測
		ピロティ（駐車場）の建設費	７億円	７億円	設計事務所の見積
		地下駐車場の建設費	16億円	16億円	
		人工芝の整備費	0.5億円	0.9億円	
	外構工事費（＋駐車場）		3.5億円	3.5億円	設計事務所の見積
	設計費		4.1億円	4.7億円	
	調査費		0.4億円	0.4億円	
	施工監理費		2.2億円	2.5億円	
	合計金額		**175.7億円**	**208.9億円**	
維持管理費①	運営業務、清掃・警備・点検等の日常的な維持管理業務に係る費用、水道光熱費、通信費、修繕費		【プール有】 2.2億円/年×30年=66億円 【プール無】 1.9億円/年×30年=57億円	【プール有】 2.7億円/年×30年=81億円 【プール無】 2.4億円/年×30年=72億円	**他のアリーナにおける人件費や維持管理費等を参考に、運営管理費１㎡あたりの単価を採用**
	駐車場の維持管理費		14.9百万円／年×30年 =4.5億円	14.9百万円／年×30年 =4.5億円	他の駐車場の事例を参考
大規模修繕費②	施設設備の交換や内外装等の全面改修費用		46.8億円	56.5億円	大規模改修を30年毎（建設費の30%）で算出
			31.2億円	37.6億円	定期修繕を10年毎（建設費の10%×２回）で算出
整備費 ＋ ①＋②	**30年間の累計金額**		**【プール有】 324.2億円/30年 【プール無】 315.2億円/30年**	**【プール有】 388.5億円/30年 【プール無】 379.5億円/30年**	

着工が予想される令和10年には、さらに建設費高騰が見込まれ、近年の上昇率から1.03～1.19倍に高騰することが予想される。

この他、備品の整備費用が必要。
＜参考＞
あなぶきアリーナ約11億円
（センターハングビジョン、リボンビジョン、デジタルサイネージ、木製フローリングパネル、移動式観覧席、バスケットゴール一式など）

新県民体育館における年間の収支及び指定管理代行料の見通し

参考資料５

＜試算の考え方＞

○**収入**

・貸館収入は、プロスポーツ、音楽コンサート、MICE、競技大会などの年間利用日数（第３回新県民体育館整備等基本計画検討会の資料に基づく）に、他県の類似のアリーナ15施設における利用料金の平均値を掛けて算出。利用料金は、平日・土日祝日、アマチュア・アマチュア以外、入場料の徴収あり・なしによって区分して設定

・貸館以外収入は、備品貸出、VIP室利用、ネーミングライツ、広告掲出料、物販飲食、駐車場収入などが考えられ、他のアリーナの事例や本県の状況を踏まえ試算

○**支出**

・他県の類似のアリーナ16施設の支出実績を踏まえ、プールがある施設とプールがない施設それぞれの延床面積１㎡あたりの運営単価を算出し、その単価を本県の新県民体育館の延床面積17,500㎡に掛けて試算

費目	細目	単位	サブアリーナ（１面） 開業初期（１～５年目）	サブアリーナ（１面） 充実期（6～30年）	サブアリーナ（２面） 開業初期（１～５年目）	サブアリーナ（２面） 充実期（6～30年）
貸館収入						
メインアリーナ：興行利用		千円/年	23,144	23,144	81,956	97,404
メインアリーナ：県民利用		千円/年	25,433	25,433	16,601	16,913
サブアリーナ		千円/年	9,068	9,068	9,068	9,068
マルチスペース		千円/年	6,139	6,139	6,139	12,278
貸館収入　小計		千円/年	63,784	63,784	113,764	135,663
貸館以外収入						
貸館以外収入　小計		千円/年	13,685	13,955	26,098	38,020
収入合計		千円/年	**77,469**	**77,739**	**139,862**	**173,683**
プールなし						
人件費		千円/年	37,083	37,083	46,025	46,025
維持管理費		千円/年	135,783	135,783	168,525	168,525
その他経費		千円/年	21,023	21,023	26,093	26,093
支出合計		千円/年	**193,889**	**193,889**	**240,643**	**240,643**
プールあり						
人件費		千円/年	37,379	37,379	46,393	46,393
維持管理費		千円/年	163,264	163,264	202,633	202,633
その他経費		千円/年	18,090	18,090	22,453	22,453
支出合計		千円/年	**218,733**	**218,733**	**271,478**	**271,478**
プールなし	指定管理代行料（公費負担）	千円/年	**116,420**	**116,150**	**100,780**	**66,960**
プールあり	指定管理代行料（公費負担）	千円/年	**141,264**	**140,994**	**131,615**	**97,795**

○プールがある場合の指定管理代行料は年間１臆円～1.3億円程度かかる見通し

※現在の県民体育館と武道館を合わせた年間の指定管理代行料は1.2億円程度

※「あなぶきアリーナ香川」の年間の指定管理代行料は1.4億円程度

○プールがある場合とない場合では年間３千万円程度の差が生じると見込まれる

※現在の県民体育館プールの運営にかかる経費と同水準

※将来的に学校の水泳授業を受け込む場合は、使用料を受領し管理代行料の圧縮が可能

参考資料６

令和７年12月18日　スポーツ課

高知ぢばさんセンター大ホールで開催している展示会等を新県民体育館で開催する場合の懸念点と対応策について

※メインアリーナの床は土間コンクリート、サブアリーナはバスケットコート２面・観客席がある場合に以下のような対応が可能
※「懸念点」欄の(　　)内はぢばさんセンター大ホールでの事例

<table>
<tr><th>No.</th><th>項　目</th><th>懸　念　点</th><th>対　応　策</th></tr>
<tr><td>1</td><td>貸出期間</td><td>イベントの準備期間を含めた貸出期間を確保することは可能か。

（ものメッセ：１週間
フードランド：５日間
商談、展示会、学園祭：２～３日間）</td><td>令和７年10月22日に開催した第３回新県民体育館整備等基本計画検討会において、現在ぢばさんセンター大ホールで開催している展示会や見本市等の開催日数を考慮した年間利用日数のシミュレーション結果を示したとおり、準備期間を含む貸出期間を確保することは可能と考えている。</td></tr>
<tr><td>2</td><td>搬入出</td><td>搬入、搬出時の動線（作業スペース、搬入口への車の停車含む）を確保できるか。
サイズが大きい物の搬入出は可能か。</td><td>・メインアリーナの床は土間コンクリートとし、設営・撤去に使用する大型トラックが搬入出口からそのままフロアに出入りすることができる設計を想定している。他県の事例から、搬入出口は、高さ3.8m、重さ11tまでのトラックの入場が可能となる見込み。
・敷地南側の市道（約6m）に加え、メインアリーナの形状（すり鉢型）や敷地のセットバック等により動線を広く確保することは可能と考えており、作業スペースや車両の待避スペースなどを含め展示会や見本市等の開催時に極力混雑や車両の待機時間を生じさせない動線を確保するよう設計の仕様に盛り込む。</td></tr>
<tr><td>3</td><td>搬入出</td><td>早朝夜間の利用は可能か。

（搬入開始：８時（イベントによっては7時半頃から開始）
搬出終了：２１時～２２時）</td><td>可能。現在の県民体育館においても、イベントや有名アーティストのコンサートなどで大規模な会場設営を行っているが、早朝（６時半）から深夜まで搬入出に対応しており、選挙の際は夜通し体育館を開けている。</td></tr>
<tr><td>4</td><td>駐車場</td><td>大規模イベントでの駐車場を確保できるか。

・ものメッセ(関係者必要台数)
<table>
<tr><th rowspan="2"></th><th rowspan="2">搬入時
(ﾋﾟｰｸ時)</th><th colspan="2">イベント当日</th></tr>
<tr><th>関係者、来賓者</th><th>関係者、来場者、来賓者</th></tr>
<tr><td>R6年度</td><td>65台程度</td><td>140台</td><td>720台程度</td></tr>
<tr><td>R7年度</td><td>90台程度</td><td>180台</td><td>720台程度</td></tr>
</table></td><td>・ぢばさんセンター大ホールで開催しているイベント等の状況を踏まえ、イベント開催時における主催者や出展事業者、来場者用に必要な駐車場の台数を検討している。現在、地下駐車場を含め敷地内に250台程度の駐車場の確保が必要と考えているが、さらに駐車台数を増やすことができるか検討していく。
・大規模イベント時には、基本的に来場者には公共交通機関の利用を促し、駐車場は関係者に優先的に使用いただく。駐車台数が不足する場合は、旧高知南中高の敷地内（普通車約1,000台）を臨時駐車場として活用いただくことを想定。なお、旧高知南中高から会場までシャトルバスの運行によるピストン輸送を行う場合は、主催者側の手配と費用負担での対応となる。</td></tr>
<tr><td>5</td><td>大型バスの待機、乗降場所</td><td>大規模イベントでは大型バス複数台の利用がされるが、バスの待機所、乗降スペースを確保できるか。

（R7 ものメッセ　最大４１台）</td><td>・乗降スペースとしては、メインアリーナ正面前の憩いのスペースか、敷地南の市道から入る入場口（事業者用）付近のいずれかに確保するよう設計の仕様に盛り込む。
・バスの待機場所の確保は検討するが、台数を十分に確保できない可能性があり、その際は旧高知南中高敷地内や高知港などを臨時駐車場として使用いただくことが考えられる。</td></tr>
</table>

6	備品	机やパイプ椅子等の貸出しは可能か。 （大ホール保有数：机500台、パイプ椅子3,600脚 近年の利用実績：机350台（R6商談会）、 パイプ椅子720脚（R4セミナー））	机やパイプ椅子等の備品について、競技大会用の備品などを収容する関係から、ぢばさんセンター大ホールの保有数相当の確保は難しいが、現在の県民体育館の現状（長机200台、パイプ椅子2,000脚）よりも多い数量の確保に努める。イベント開催時には、新県民体育館に備える机やパイプ椅子を使うことを基本とし、不足する場合は主催者側に用意いただく運用になるものと考えている。
7	火気使用	屋内で火器を利用するイベントへの対応は可能か。	・新県民体育館の使用ルールとして火気の取扱いを定める。概ねガスコンロの使用は可、炭火焼きやガスバーナーの使用は不可（屋外は可）といった取扱いになるものと考えている。 ・「所定区域以外での火気の使用を禁止」、「主催者が所轄消防署及び施設管理者の承認を得た場合に限り、限定的に使用可」といった取扱いルールが考えられる。 ・消防法の範囲内で、今ぢばさんセンター大ホールで行っている火気の利用は最大限できるようにする。
8	屋外展示	屋外展示（大型展示、水道が必要な展示、発電機の設置等）スペースは確保できるか。	メインアリーナ正面前に「憩いのスペース」を設けることを計画しており、この憩いのスペースを活用して、キッチンカーやテントブースなどによる飲食の提供やマルシェの開催などを想定している。屋外展示に必要なスペースは確保できるものと考えている。
9	屋外飲食	屋外での飲食スペースを確保できるか。（屋台形式、キッチンカーなど）	憩いのスペースを活用して、キッチンカーやテントブースなどによる飲食の提供やマルシェの開催などを想定している。
10	騒音対策	大型イベントの搬入出時や屋外テント設営時の騒音に対する周辺民家等への配慮は十分に行えるか。	・車両による搬入出は、床が土間コンクリートであるアリーナのフロアまで車両が入れるため、アリーナ内での設営・撤去の際の騒音は抑制できると考えている。 ・屋外での設営や撤去は夜10時までとするといった運用ルールを定めることとする。 ・周辺民家等への配慮については、現在の県民体育館においても、コンサートの際は主催者とともに周辺の民家や量販店に挨拶に行っている。騒音等で一定ご迷惑をかけること、量販店には駐車場の問題も追加して説明をしている。
11	利用者の声	第３回検討会資料では、ぢばさんセンター大ホールの展示会等を新体育館で開催可能とされている。具体的な施設配置や条件等を示したうえで、現在の大ホール利用者に対して体育館と大ホールのどちらの利用希望か意向確認を行わないと正確なシミュレーションができないのではないか。	・第３回検討会では、現在ぢばさんセンター大ホールで開催している展示会等を仮に全て新県民体育館のアリーナで開催することとした想定で、競技大会やプロスポーツ、興行も含めた年間の利用日数がどのようになるか、さらに増やしていける余地があるかといった視点でシミュレーションを行った結果を示した。 ・観客席5,000席のメインアリーナの規模や、年間の利用日数という点では、現在ぢばさんセンター大ホールで開催している展示会等を新県民体育館のアリーナで開催することは可能と考えている。駐車場や動線の確保といった課題に対し、県産業振興センターや関係団体等のご意見を踏まえて設計段階で適切に反映していく。

※「懸念点」欄は高知ぢばさんセンター大ホールを所管する（公財）高知県産業振興センターが記入

新県民体育館の整備に関する市民・県民のニーズ把握

参考資料７

オープンハウス（取組紹介パネルの掲示）

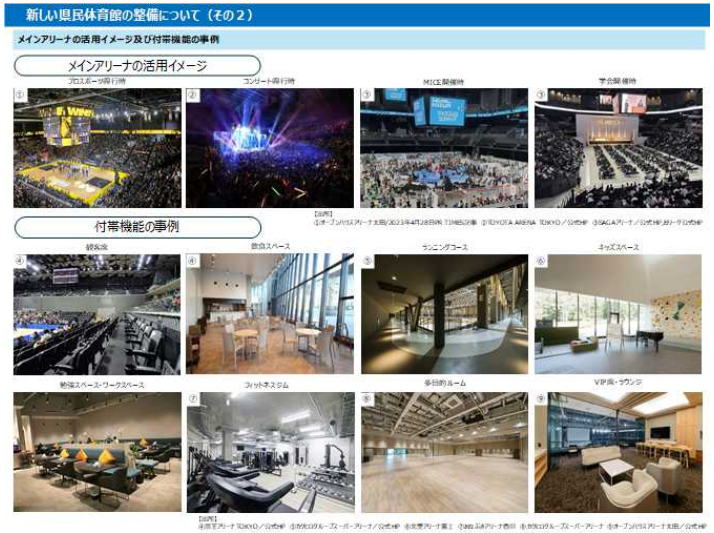
【概要】
　新県民体育館の整備に関する取組を紹介するパネルを掲示し、市民・県民の期待することや希望することをシールや付箋で貼り付けてもらい広く募る

【設置期間】
　令和７年11月19日～12月26日

【設置場所】
　高知市役所１階正面ロビー
　オーテピア高知図書館１階ロビー
　県民体育館１階正面ロビー

【意見総数】（12月15日時点）
　シール総数　　3,045件
　自由記入総数　　97件

【主な意見】
・暑いので歩けるコース（屋内）がほしい
・屋内のよさこい演舞場を作ってほしい
・駐車場を地下か屋上に広く設けてほしい
・利用料が安く県民が使いやすい施設にしてほしい
・これまで見られなかったアーティストのコンサートを見たい
・新たな大きな施設は不要。今ある施設を活かして整備をしてほしい
・アリーナはいらない。コンサート、試合は今あるところで充分
・県民の税負担が増える箱物には反対。創意工夫でなるべく予算をコンパクトに



高校生やアスパルこうち利用者へのアンケート

【概要】
　県民体育館近辺に位置する高校に通う生徒や、アスパルこうち内の教育支援センターの利用者を対象に、新県民体育館に期待することや希望することをアンケート形式により把握する
【期間】 令和７年11月19日～12月26日
【実施方法】 Googleフォームによる回答
【回答総数】 総数215件（12月15月時点）

【 主な意見 】
・プロスポーツが見たい
・地元にプロチームができてほしい
・大きなライブ、コンサートに行きたい
・ＴＧＣ（東京ガールズコレクション）が見たい
・自習室やワークスペースで学習したい
・ｅスポーツを体験したい
・無料のフリースペースでくつろぎたい

・生徒や青年センターの両者のことを考えて土のグラウンドは残すべき
・地域にとって駐車場、騒音、治安問題が心配
・大きな施設が隣にあるのは圧迫感や緊張感を高める原因となる。
・アスパルのグランドは高知市のもの。高知市の土地を使うことを前提にした県の整備方針そのものが「上から目線」のように感じる。

新県民体育館の整備についての関係者の主な意見（ヒアリング）

参考資料８

プロスポーツ

（Bリーグ関係者）

・高知県は28-29シーズンの参入を目指して取り組んでいただくのが良い。
・チームがない間は、公式戦開催は難しいが、プレシーズンマッチの開催は条件が整えば可能。
・ホームアリーナを指定し６割をそこで試合開催することが基本であるが、当アリーナが工事中等の場合の要件の緩和措置がある。**新県民体育館の建設中は別の体育館で試合ができるように調整が必要**で、他県も事例がある。
・動線は重要で、プールや武道館の利用者と選手とが交わらないような工夫。
・B1チームの売上平均20億円規模。B2チームは８億円規模。B3チームは１億２～７千万円規模。
・アジアでのバスケ人気は好調。フィリピンはバスケが国技。台湾も人気。
・女性のファンが多い。天候に左右されず日焼けをしない環境が人気の理由の一つ。
・プロチームを基盤としたまちづくりモデルをＢリーグは目指している。
・Ｂリーグのチームがない県は、残り①山梨、②和歌山、③鳥取、④高知、⑤大分、⑥宮崎の６県。
・Ｂ-Nextのチームの最低売上目標は１億円。中期的な計画が重要。
・チーム運営に携わる人達とスポンサーの両輪が重要。それにはバスケットボール協会や行政の協力が必要。
・あるチームはバスケットボール協会が動き、地元出身の社長であるスポンサーを説得。株式の多くをメインスポンサーが担い、残りは複数の地元企業で構成するパターンもある。
・行政としては、チームを観光大使として任命し補助したり、アウェイ戦で特産品の販売やアリーナの試合日の確保、子どもたちへのチケットの配布等がある。

（SVリーグ関係者）

・チームがない高知では、公式戦開催は難しいが、**プレシーズンマッチの開催は条件が整えば可能。**選手との交流機会を継続して開催することで、それぞれのリーグファン獲得や、チーム誕生に繋がる。

（金融関係者）

・Bリーグのスポンサーは、企業の色がついているので、新しいスポンサーがつきにくい可能性はあると思う 。

コンサート･ＭＩＣＥ

（イベント関係者）

・今のぢばさんセンターより小さいメインアリーナでは厳しいと思っている。**ぢばさんセンターと同規模ならば問題は無いと思う。**
・ぢばさんセンターは新県民体育館ができるまでは残してほしい。
・大規模イベント時、プールや武道館の利用者が混在することになる。すべての施設の借り上げとなると、開催コストが今よりも増えることを懸念している。開催日は、プールや武道館は停止する必要があるかもしれない。
・イベントの種類によっては生の食品を取り扱う場合があり、新県民体育館においても許可が取れるのかどうか懸念。
・アリーナを半分使えるように、暗幕（黒いカーテン）などで会場を仕切れるとよい。それで利用料金を抑えられたらいい。
・県内企業の現状を考えると、サブアリーナの規模の利用が現実的ではないか。

（コンサート関係者）

・県がやりたいことのレギュレーションをクリアした上で、機能は派生するべき。
・プールに関しては、大型コンサートになると全面貸し切りになると思うのでありかなしかは関係ない。
・5,000席というのは大型コンサートを誘致するうえでは厳しい数字。トヨタアリーナの考え方は、通常、アリーナコンサートであるがホールコンサートもできるような仕様。そうなれば全面貸し切りでなくても良くなり、あくまでアリーナコンサートがメインではあるが、選択肢は広がる。規模が違うのでオレンジホールやかるぽーとの棲み分けも可能ではないか。

（観光関係者）

・例えば**会場を半分に仕切って片方で会議をし、もう片方で立食パーティーをするというような形態もある**ので、飲食の一時保管するような諸室や冷蔵機能つきのトラック等の駐車スペースも必要では。

新県民体育館の整備についての関係者の主な意見（ヒアリング）

搬入出・動線・駐車場

（イベント関係者）

・駐車場は250台程度では足りない印象。イベントを開催するうえで駐車場はかなり重要。

・大規模イベントの搬入日には大小併せてＭＡＸ400台の関係者の車が来る。一度に収容することはできないので、調整を考える必要がある。

・大規模イベントが平日開催である場合には、朝と夕方の通勤時間にイベントが原因で渋滞することが想定される。新県民体育館においても同様で、交通計画が重要。

・高知県の立地条件において来場者やメーカーは関西圏から車で来る人も多数いる。

・観光イベントで駐車場が有料だと敬遠されがち（飲食や体験にお金を使いたい）。また、臨時駐車場からの距離が一定あると、帰ってしまう人が多いのは高知県の特徴。

・スポーツイベントでは観客の駐車場なくて文句はでないと思うが、商業イベントでは駐車場がなければ厳しい。

・ある施設では、近隣の駐車場に止められる通知があった後に、駐車場周辺が混雑していた。アナウンスの工夫が必要。

・スタッフ用の駐車場はすぐにトラックを出したい場合もあるので地下よりも平面のほうが都合が良い。

・地下駐車場の場合は業務用のエレベーターも必要。

・メインアリーナ正面の憩いのスペースは、選手がバスで来場する際に、乗り降りできるスペースがあれば良い。

・最初は新しい施設という理由で予約が埋まりやすいと思うが、アクセスや利用料金によってあまり使われない会場となる可能性もある。

・フリーマーケットやコミックマーケットなど分散する出店を一挙に開催できるのはアリーナの利点。

（コンサート関係者）

・駐車場は事前精算機を導入すると出るときはかなりスムーズになる。一般的に、地下駐車場200台は事前精算を使うと30分で出ることが完了できる。

・有料スペースと無料スペースが自由に行き来できないような動線が必要。

収支・コスト関係

（金融関係者）

・民間が運営するとなれば、**収益が生み出せそうな施設であるべき**で、他県に比較して本施設が優位性があることが望ましい。

・一般的に運営側にリスクがあり、指定管理の採算が合わないケースが多い。

・プールや武道館のように収益性が少ない見込みの施設と一緒にＰＦＩの計画となると苦しい。

・今の配置案を見たときに収益性は直感でいうと厳しく感じている。赤字部分の補填に対する資金供給という形は良くない。

・イベントがない日においても人が自然と集まるような仕組みが必要ではないか。

・ダイナミックプライシングなども考慮した収益の予測も今後検討が必要。
（ダイナミックプライシング：時間や状況に応じて値付けを変動させる取組）

・建設単価は感覚的に100万円/㎡を下回れば安く済む印象。

・プールについては敷地は同じであるが管理者を分けるなど検討してみては。

（イベント関係者）

・イベントをする際、屋外では使用料がほぼ無料だが、アリーナでは使用料がかかる。ぢばさんセンターも昔はイベントで使っていたが、今は使用料が負担となって使えない。

・イベントの予算の中で、会場使用料に多くをとられ、コンテンツに費用をかけられなくなる。屋内施設でイベントを行う場合、雨天対応が不要になるが、会場使用料と空調費用がイベント予算を圧迫する。

・周辺が住宅街、混雑が予想されるので、警備の人員も多くいり、コストがかかる。